

第二回

花の会

令和五年九月九日(土)

十四時三〇分開演(十四時開場)

中央区立日本橋公会堂

入場料

A席五、〇〇〇円

B席三、〇〇〇円

舞踊

地唄 茶音頭

『蘆屋道満大内鑑』より

素浄瑠璃

葛の葉子別れの段

舞踊

葛の葉道行

❁お問い合わせ・チケット申込先❁

鶴澤 津賀花
藤間 涼花

tsugahana0822@gmail.com
suzuka100odori@gmail.com





女流義太夫 三味線方
鶴澤 津賀花

武蔵野音楽大学音楽部音楽学学科卒業。1998年、女流義太夫夫人間国宝の竹本駒之助に入門。2001年、国立演芸場にて初舞台。2006年、文化庁新進芸術家国内研修員として三味線を六世鶴澤燕三に師事。2007年、文化庁芸術団体人材育成支援事業研修員。(一社)義太夫協会新人奨励賞受賞。2009年、第十回(公財)日本伝統文化振興財団「邦楽技能者オーディション」合格。2011年、第二十四回(財)清栄会奨励賞受賞。2017年、第三十八回松尾芸能賞新人賞受賞。



日本舞踊宗家藤間流
師範名執
藤間 涼花

共立女子大学文学部劇芸術コース卒業。1995年大学内サークルにて日本舞踊を始める。2001年より三世藤間勘十郎、八世藤間勘十郎の下での内弟子修行を経て2008年師範名執取得、2013年独立。「すずの会」主宰。主に赤坂、月島、中央林間などの稽古場にて指導。南林間、橋本、青葉台のカルチャーセンターで講座開講中。国立劇場歌舞伎俳優養成事業日本舞踊講師。共立女子大学日本舞踊研究会講師。同大学文学部劇芸術専修非常勤講師。

舞踊地唄茶音頭

立方 藤間 涼花
演奏 川瀬露秋社中

茶道具やお茶の名所など、茶の湯の事物を通じて男女の恋心を優美に表現した曲です。振付にも帛紗を使用されるなど、茶の湯の作法が巧みに取り入れられています。

義太夫 蘆屋道満大内鑑

竹田出雲作。享保十九年(一七三四)大坂竹本座初演。信田の森の白狐が安倍保名と契つて男子を生んだという、陰陽師安倍晴明の出生譚をもとにしています。今回は、葛の葉の物語を中心に、前半の子別れの段を素浄瑠璃、後半の道行を舞踊で上演致します。

素浄瑠璃 葛の葉子別れの段

人間国宝
素浄瑠璃 竹本 駒之助
三味線 鶴澤 津賀花

許嫁の榊の前が自害し正気を失った安倍保名は、信田の森で榊の前と瓜二つの妹、葛の葉姫に出会い夫婦となります。一子をもうけ幸せに暮らしていますが、六年後もう一人の葛の葉姫が訪ねてきたことで、妻葛の葉の正体は白狐であることがわかります。狐葛の葉は、障子に「恋しくば尋ね来て見よ和泉なる 信田の森のうらみ葛の葉」という歌を書き残し姿を消します。親子の悲しい別れと深い情愛が描かれます。

舞踊 葛の葉道行

立方 藤間 涼花

浄瑠璃 竹本 綾之助 三味線 鶴澤 津賀花
竹本 京之助 鶴澤 駒 清
竹本 寿々女 鶴澤 弥々
箏 川瀬 露 秋 蔭囃子 藤舎千穂社中

正体を現し我が子や夫と別れ、古巣の信田の森へ戻る葛の葉の道中を綴った舞踊です。旅姿の葛の葉は「添うに添われぬ」身を嘆き、童子に思いを馳せながら、水に映る狐姿の我が身を見て悲しみにくれます。

中央区立日本橋公会堂(日本橋劇場)

東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目31番1号
日本橋区民センター内

- ◆東京メトロ半蔵門線「水天宮前」駅 6番出口 徒歩約2分
- ◆東京メトロ日比谷線「人形町」駅 A2出口 徒歩約5分
- ◆都営地下鉄浅草線「人形町」駅 A3・A5出口 徒歩約7分

A席 5,000円 (1階全席・2階席正面最前列)
B席 3,000円 (2階席左右・同正面2列以降)

主催 花の会 鶴澤津賀花 藤間涼花
後援 (公財)日本伝統文化振興財団・(一社)義太夫協会





第2回花の会 問合わせ&チケット受付

docs.google.com